

# おしえて!先輩

〜宮沢賢治の世界を演じてみよう〜

主催：平塚市文化財団  
共催：平塚市立港小学校・平塚市教育委員会  
湘南ケーブルネットワーク

## プロフィール

要田 禎子 (ようださちこ)

1959年2月 平塚生まれ  
現代演劇協会劇団昴付属演劇学校  
を経て、1985年より劇団昴座員。  
舞台俳優。東京在住。



「母校の小学校へ帰って後輩たちと芝居作りをする」、これが今回のテーマ。現役の劇団員である要田さんが、演劇初体験の小学生たちと楽しく真剣に、そして、交流の中から紡ぎ上がった芝居とは・・・。

## 小学5年生とお芝居を創りました!

去年の11月、港小学校時代の友人から仕事の依頼がありました。平塚市文化財団のふるさと文化事業「おしえて!先輩」という企画で、母校の小学生にお芝居を教えるというものでした。私は是非やりたいとすぐ承知しました。二つ返事ってヤツですね。



私は劇団昴という所謂新劇の劇団に所属している俳優です。創設者は評論家であり英文学者でもある故福田恆在。劇団ではシェイクスピア劇を中心に主に翻訳劇を上演しています。

私は小学生には劇を、出来ればきちんと書かれた日本の古典劇をやらせたかった。でも私は残念ながら専門外。そこで少しは知識のあるシェイクスピアを、と考えました。

私は小学生には劇を、出来ればきちんと書かれた日本の古典劇をやらせたかった。でも私は残念ながら専門外。そこで少しは知識のあるシェイクスピアを、と考えました。

最初に頭に浮かんだ作品は『ジュリアス・シーザー』です。シーザーが暗殺される前に言う「お前もか、ブルータス」はあまりにも有名な台詞ですね。シーザーが倒された後、

混乱するローマ市民に向かって我が意の正当性を説明するブルータス、それを受け入れる市民、その後アントニーがシーザーの亡骸を掻き抱き、嘆きと怒りと絶望とシーザーがいかに民衆を思っていたかを語りかけると、市民はその真摯な姿に先程納得した筈の結論をあっさり覆し、シーザー暗殺は不当だ、許すな、と暴徒になってゆく。この一連の群集政治劇は何度読んでも面白く、誰が演ってもまあ概ね成功するでしょう。言葉自体は難解ですが私はこれを5年生と一緒にやろうと考えました。

ま、無謀でしたね。担任の先生と話し合っってこの案はすぐ引っ込めました。

代案は『宛名のない手紙』。劇団の菊池准が書き下ろした現代作品です。宮沢賢治の主だった作品を、賢治と妹のとし子のダブルイメージの兄妹が、「山猫博士」と共に紹介していった最後に『永訣の朝』で妹を送り、『星めぐりの歌』を歌って物語りは幕を閉じます。丁度教科書で『セロ弾きのゴーシュ』を勉強しているとい



う事でこの作品に決まりました。

まず台本の3分の2をカット。そして悩んだのが配役です。港小学校5年2組の生徒は40名。役は10個。演劇を体験する事の中には大道具を作ったり、照明を当てたりという裏方を体験する事も含まれるでしょう。でも私はすべての生徒が役者として舞台上立つことを目指しました。ともかくひとつの役を何人もがリレーしながら演じていく事にして、簡単なオーディションをしました。

驚いた事に子供達はどの子も殆ど同じでした。文章の読み方、声の出し方、抑揚、息継ぎの箇所、本の持ち方も立ち方も同じ。男子も女子も。きっと慣れない事するから最初にやった子の見様見真似で遣り過そうと知恵を働かせたのね。なんて可愛い。でも、皆同じ様、には困りました。

その日、給食を食べました。おお、学校給食。変わってないじゃん。懐かしい。そして私のコンピューターが一気に回転、配役終了です。元気の源、学校給食! 説得力ゼロですが。



役が決まって台詞を覚えると子供達は一人一人浮き立つようになります。決められた台詞を言う事でその子の個性が自然と光ります。ですから私はアドバイスの内容で迷った事はありません。子供達の表現が「ここが出来てない」と主張するんですけど、それを指摘するのは簡単でした。一番楽しい作業でした。

そして全員での『永訣の朝』朗読。本番一番心配だったシーン。子供達は大切な人を失う現実を表現できないでいました。でも本番当日心配は杞憂でした。本番の緊張からか、一人一人の声は、不思議にも悲しいトーンの中にも慟哭のエネルギーさえ感じられる、実に詩的な世界を展開しました。福田は演劇とは舞台と客席との間で起こる何かだと言いました。正にこの舞台にはその何かがあったように思います。シーザーやれたかも、残念。

